

1. 学歴

1996年 3月 東京大学教養学部卒業
1996年 4月 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程入学
2000年 6月 同博士課程中退
2003年 4月 博士 (学術)

2. 職歴・研究歴

2000年 6月 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻助手
2004年 4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

資源経済学 (2004年度 - 2006年度)
経済学入門 (2005年度)
基礎ゼミ (2006年度)

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義 (資源経済学) では、「マテリアル・フローの政治経済学」をテーマとして論じる。一般に、特定の物質循環に着目することで、資源や環境に関わる社会的問題の構造を端的に把握することができる。その構造を生み出す社会経済的要因を分析して、問題の解決をめざすアプローチである。具体的には、様々な資源・製品の物質循環の定量的把握や特徴の分析を行う手法、それら物質循環を規定する社会・経済活動とその活動を制御する政策手法について紹介する。

学部講義 (経済学入門) では、経済学部 1 年生と他学部の経済学関連講義未修生を主たる対象とし、経済学において用いられる概念や経済学的思考方法などを、具体的事例に則して解説する。これにより、受講者が 200 番台コア科目に進むにあたり、一定の見通しを持って講義選択ができるよう、経済学体系の見取り図を示す。

学部ゼミでは、資源経済学の講義内容と関連させ、当該分野の基礎的な文献の輪読や、現実の物質循環の分析作業の演習などを行う。大学院ゼミでは、資源経済学の対象分野を中心としつつ、個々人の関心に応じて論文指導を行う。

4. 主な研究テーマ

- (1) マテリアル・フロー分析
- (2) 廃棄物・リサイクル政策

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『アジア環境白書 2003/04』(井上真, 大島堅一, 小島道一と共編), 東洋経済新報社, 2003 年。

『アジア環境白書 2006/07』(井上真, 大島堅一, 小島道一, 除本理史と共編), 東洋経済新報社, 2006 年。

(b) 論文 (査読つき論文には*)

「若い世代にとっての地球環境問題」(菊地一佳, 近藤直人, 藤井朋樹, 宮田幸子, 八十島光子, 吉田孝志と共著) 阿部寛治編『概説地球環境問題』所収, 東京大学出版会, 1998 年, 143-165 頁。

「環境学者の作り方 T 字型モデルからの脱却をめざして」『環境と公害』第 29 巻 4 号, 2000 年, 63-66 頁。

* "Circulation indices: new tools for analyzing the structure of material cascades," (written jointly with Kishino, H., Hanyu, K., Hayashi, C. and Abe, K.), *Resources, Conservation and Recycling*, Vol. 28, 2000, pp.85-104.

「紙リサイクルの南北問題」日本環境会議/「アジア環境白書」編集委員会編『アジア環境白書 2000/01』所収, 東洋経済新報社, 2000 年, 338-341 頁。

「越境するリサイクルをデータで追う」『国際環境協力』第 2 巻, 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻国際環境協力コース, 2002 年, 115-125 頁。

「増大する廃棄物と発生抑制に向けた新政策」(小島道一と共著) 日本環境会議/「アジア環境白書」編集委員会編『アジア環境白書 2003/04』所収, 東洋経済新報社, 2003 年, 370-373 頁。

「リサイクルの国際化」日本環境会議/「アジア環境白書」編集委員会編『アジア環境白書 2003/04』所収, 東洋経済新報社, 2003 年, 374-377 頁。

「廃棄物政策 発生抑制インセンティブの効果的利用に向けて」(小出秀雄と共著) 寺西俊一編『新しい環境経済政策 サステナブル・エコノミーへの道』所収, 2003 年, 155-192 頁。

「なぜ三重県では産廃最終処分量が激減したのか?」(除本理史と共著)『環境と公害』第 33 巻 4 号, 2004 年, 48-55 頁

「越境するリサイクル」高木保興編『国際協力学』所収, 東京大学出版会, 2004 年, 128-135 頁。

* 「国際リサイクルとその指標」小島道一編『アジアにおける循環資源貿易』所収, アジア経済研究所, 2005 年, 149-162 頁。

"A General Equilibrium Analysis of Waste Management Policy in Japan," (written jointly with Okushima, S.), *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol. 46, No. 1, 2005, pp.111-134.

「国際リサイクルの適正管理に向けて」寺西俊一, 大島堅一, 井上真編『地球環境保全への途 アジアからのメッセージ』所収, 有斐閣, 2006 年, 207-224 頁。

「朝鮮民主主義人民共和国 知られざる環境面の実態」(崔順踊と共著) 井上真, 大島堅一, 小島道一, 除本理史, 山下英俊編『アジア環境白書 2006/07』, 東洋経済新報社, 2006 年, 169-188 頁。

(d) その他

「インターネットで調べるアジアの廃棄物情報」『アジア環境白書 2003/04』刊行に寄せて『環境と公害』第 33 巻 3 号, 2004 年, 70-71 頁。

「『アジア環境白書 2003/04』刊行記念シンポジウム」『環境と公害』第 34 巻 1 号, 2004 年, 69 頁。

「環境経済」(寺西俊一, 除本理史と共著)『イミダス 2005』, 集英社, 2004 年。

「第7回アジア・太平洋 NGO 環境会議 (APNEC-7) の記録と宣言」『環境と公害』第35巻4号, 2006年, 64-66頁。

B. 最近の研究活動

(b) 国内研究プロジェクト

「環境再生を通じた『持続可能な社会』の実現に向けた総合政策に関する学際的共同研究」(代表・淡路剛久), 日本生命財団・平成14年度特別研究助成, 2002年 - 2004年。

「アジアにおけるリサイクルと再生資源貿易」(代表・小島道一), アジア経済研究所, 2004年。

「『アジア環境協力』の制度構築に向けた基本ビジョンと具体的システムに関する政策研究」(代表・寺西俊一), 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), 2005年度 - 2007年度。

「ITと環境問題 電気・電子機器廃棄物を中心に」(代表・吉田文和), 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), 2006年度 - 2008年度。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

学生支援センター運営協議会委員 2005年度

附属図書館委員会委員 2006年度

経営企画委員会企画部会機関リポジトリワーキング委員 2006年度

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

桜美林大学経済学部「資源・エネルギー論」2003年度

立命館アジア太平洋大学「アジア太平洋環境論」2004年度 - 2006年度

東京大学教養学部「地球環境論」2004年度

日本獣医生命科学大学「環境経済学」2006年度

(b) 参加学会及び学術活動

環境経済・政策学会

廃棄物学会

(c) 公開講座, 開放講座

まちだ市民大学「環境講座」2005年度 - 2006年度

国際交流基金異文化理解講座「アジアの環境問題」2006年度

(d) その他

日本環境会議

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

(財) 地球産業文化研究所「アジア循環ネットワークの構築に関する調査研究委員会」(2004年)